



## 時代に即したまちづくりを目指して

津別町議会議長 鹿中 順一

津別町民の皆さん、新年あけましておめでとございます。皆さんにおかれましてもお元気で新年をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。さて、1年の計は元旦にあるりと古くから申されていますが、年頭にはだれしもが大きな希望に胸はずませてこの1年間の計画をお立てのことと存じます。私も議会議員も、昨年2月の任期満了にともない選挙が執行され、3月から定数が2人減の10人となり、新しい議会体制でスタートさせていただいたところであります。昨年を振り返ってみますと、世界を覆った金融不安と景気後退を背景にわが国の景気も急速に悪化し、地方自治体にも多大な影響が出ております。この不況に対応し、昨年の4月にロンドンで20カ国地域首脳会合（金融サミット）が開催され、採択した宣言で今年末までに総額で5兆ドルの財政出動に踏み切ることに合意。それを受け政府は、史上最大規模の追加経済対策を決定し、なかでも地方自治体への財政面での特コ入れ策として「地域活性化・公共投資臨時交付

金」と「地域活性化・経済危機対策臨時交付金」により、地方自治体単独事業などに積極的に対応を行ったところであります。しかしながら、国内においては平成20年末以降の景気の悪化は続いたままで、世界的な景気後退を背景に輸出や生産が大幅に減少し続け、雇用情勢や所得環境の悪化に伴う消費低迷から、商品の値引き競争の激化により物価の下落が続いており、ゆるやかなデフレ状況にあると言われる中で、なすすべを見出せない状況に陥っているところであります。特に国の政権交代による事業の見直しによって、これまでとは違った政策が打ち出されてくる中で、その具体的な方向性を明確にしないまま地方分権改革も、どの方向に進めるのが定まっていらないため、地方自治の混迷も続くことが予想されているところであります。一方、本町の基幹産業であります昨年の農業におきましては低温、日照不足及び長雨による作物への影響が懸念されたところでありますが、豆類を除いてはそれほど大きな減収とはならず、総体的には

ほぼ平年並みという結果に安堵しているところであります。また、林産業におきましては景気の低迷をまともに受けており、そのため大量伐採の心配は少なくなりつつあるものの、造林意欲の欠如から植林が進まず山の荒廃が大いに懸念されているところでありますが、町内においては一昨年から導入された丸玉産業株式会社からの森づくりのため指定寄附により事業費補助の上乗せがその拡大防止の一助になっているところであります。このような中、私も議決

機関といたしましてはめまぐろしく変遷する時代に即したまちづくりを目指して、町民の皆さんのご期待にこたえるよう決意を新たにしておりますので、どうか本年も相変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。結びに、皆様のご健勝とご繁栄を心からお祈りいたしまして新年のごあいさついたします。



## 今年が槌音が聞こえる年に

津別町長 佐藤 多一

町民の皆さん、新年明けましておめでとございます。デフレ状態が続く、なかなか景気が回復しない状況が続いていますが、皆さんは輝かしい新春であつて欲しいと願いつつ新しい年をお迎えのことと思います。思い起こしますと平成18年12月25日に初登庁し、職員に対し町長としての決意を述べた後、すぐその足で津別スキー場の存続を願い東京品川プリンスホテルに向かったのが初仕事でした。あれから早いもので3年が過ぎ、任期最後の年を迎えることとなりました。この3年間、町政方針のサブタイトルを「あいさつをしあう町に」としてきましたが、今年も同じにしたいと考えているところです。さて、今年「津別町第5次総合計画」がスタートする年になります。「町は舞台、町民が主役」をテーマに、平成20年7月1日から50人の町民代表の皆さんと町職員による計画づくりが進められ、昨暮に答申をいただいたところです。委員の皆さんの計画書の行間ににじむ熱い思いをしっかりと受け止めさせていただきますました。昨年は、国から生活対策臨

時交付金と経済対策臨時交付金の二つ合わせて約4億8千万円が交付されたことから、これまで懸案であつてもなかなか手が付けられなかった事業を実施してきたところですが、一部第5次総合計画の前倒しとなる事業についても着手したところです。その一つが佐々木医院跡地を中心市街地活性化ゾーンとして活用するため、不動産の取得から取り壊し整地に至るまでの費用に充てたところです。シャッター通りという言葉が使われて久しくなりますが、今回の交付金を活用し町としてできることから始め、各界にも何らかの動きが誘発されることを期待しているところです。また、昭和57年に宣言した「愛林の町」の理念は、その後代々の町長に受け継がれてきたところですが、山に放置されている林地残材がもつたなという発想から、「津別町バイオマスタウン構想」を策定し、昨年木質ペレット工場を開設したところです。今後安定した原材料の確保と需要の確保が課題となりますが、日本の地球温暖化対策にも大きく貢献したいと考えています。観光地とは何も海や山や湖ばかりではなく、施設や人の取



写真：北海道アート社

り組みそのものも地域の観光資源となります。単板協同組合のバイオマスエネルギーセンターや有機酪農研究会のオーガニック牛乳など「クリーン群」が蓄積され、この町のイメージが固まってきたことから、これらを交流人口の拡大につなげていきたいと思えます。この3年間、町民の皆さんの協力を得ながら財政状況は平成16年当時からみますと好転し、ピークは過ぎたものの高止まりしていた公債費もあと少して安定します。次の10年に向かう第5次総合計画には次のような言葉が書かれて

います。「立派な体系に立った計画書の作成ではなく、この先のおよそ10年間を通じて、町の活性化を図るために、町民が何を優先的に実現していくのかの観点から取りまとめられたものです」と。今年、旧営林署跡地に公営住宅を建てる槌音も聞こえ徐々に町がリニューアルされていきます。計画書を手にし新しい年の幕開けを迎えることを大変うれしく思います。結びに、皆さまにとって本年が良い年となりますようご祈念申し上げ、年頭のごあいさついたします。